

翻訳について

訳者としての原井がMI-3をどう日本語にするか？

代表理事 原井宏明(なごやメンタルクリニック)



日本におけるMIの普及の中で一つネックになっているのが2012年に出版されたMI-3の翻訳です。訳者の一人として申し訳なく思っています。滞っていた仕事を再開し、2017年3月18日のJAMI第5回大会に出版が間に合うよう鋭意取り組んでいます。

私のメインの仕事は精神科医・行動療法家です。2003年からはMIトレーナーも公式に加わりました。一方、裏では通訳と翻訳の仕事もずっとやってきました。スタートは神戸大学での研修医1年目、ハワイから密入国してきた統合失調症の米国人の送還に付き添ったときです。翻訳についてはこの4年間で単独訳を2冊、分担訳を2冊出しました。2013年にAtul Gawandeの「医師は最善を尽くしているか？」を出し、今年6月に「死すべき定め」を出しました。

「死すべき定め」はHONZに取り上げられ、アマゾンの医学書部門のベストセラー一位になり、プロの訳者から連絡をいただくなど訳者冥利につきる仕事になりました。分担訳はSmithとMeyersの「CRAFT 依存症患者への治療動機づけ-家族と治療者のためのプログラムとマニュアル」とRosengrenの「動機づけ面接を身につける一人でもできるエクササイズ集」です。CRAFTの翻訳はアマゾン・レビューを見ると、“原井宏明(監訳)”を取り消したいような悲しい評価になっています。

日本におけるMIはもはや珍しい新奇なアプローチではありません。訳書は5冊出版されています。私の書き下ろしもあります。加濃先生の「禁煙の動機づけ面接法」、北田先生の「医療スタッフのための動機づけ面接法 逆引きMI学習帳」もあります。40人を超えるMINTメンバーや独自にMIを学んだ人たちもMIのSpiritやRighting ReflexなどMIのキー・コンセプトを自分なりに翻訳して人に伝えているはずで、こんな中でMIのバイブルと呼ぶべきMI-3を翻訳出版することについて私の中で怖気づくものがあったのです。

Gawandeの翻訳で経験した訳者としての価値観を満たせるレベルの日本語に仕上げたい。しかし、MIをすでに知る日本人が大勢いる中でそんなことが可能なのだろうか？

CRAFTの翻訳に対するアマゾン・レビューのようなことになったらどうしよう？

翻訳はとても矛盾に満ちた仕事です。日本に導入されてから半世紀近く経つ行動療法でもExposureはエクスポージャーか暴露なのか定訳がありません。日本認知行動療法学会に長くいるインサイダーにとっては、同じ用語でも相手によって意味が違ふから、発表では気をつけようというのがコンセンサスです。MI-3ではMI-2で慣れ親しまれたキー・コンセプトが言い換えられています。訳語も変更します。言い換えには概念の明確化や誤解防止などのそれなりの理由があります。一方で、このような言い換えが行動療法で起きたようなバリエーションの拡大も引き起こしてしまいます。MI-3の翻訳では、“動機づけ面接法”から“動機づけ面接”に変わります。“正しい反射”から“間違い指摘反射”に変わります。訳語の変更は間違い指摘反射も引き寄せるでしょう。今から訳者としては裁判にかけられるような気分です。

PS.

Gawandeの本について訳者としての感想に興味がある方は私のブログをご覧ください。

<http://hharai.cocolog-nifty.com/choice/2015/12/being-mortal-29.html>

<http://hharai.cocolog-nifty.com/choice/2016/08/2-bc99.html>

日本動機づけ面接協会第5回年次大会のプログラムのご案内

澤山 透(北里大学医学部精神科学)

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、皆様、いかがお過ごしでしょうか？北里大学医学部精神科学の澤山と申します。

この度、平成29年3月18日に開催される日本動機づけ面接協会(JAMI)第5回年次大会(開催地:東京都内)の大会長を担当させていただくことになりました(本年4月1日に原井宏明先生から大会長の依頼のメールを頂いたのですが、日付が日付だけに「エイプリルフールではないか？」と疑いながら拝読しておりましたが、ご丁寧にその依頼メールの文末には、「注意:これはエイプリルフールではないです」と書かれておりました…。大会長を担当させていただけることを光栄に思いますとともに、皆様のご協力あつての大会ですので、どうぞよろしくお願い致します。年次大会のプログラムもほぼ決定いたしましたので、このニュースレターにて紹介させていただきます。

年次大会のオープニングは、MIの評価尺度の1つであるMITI(Motivational Interviewing Treatment Integrity)の開発者であるDenise Ernst先生の基調講演です(Denise Ernst先生には、年次大会の基調講演だけでなく、前日(3月17日)と年次大会の夜(18日夜)にMITI 4のワークショップ、さらには、3月19日～20日には原井先生とご一緒に、MIワークショップのトレーナーをご担当いただく予定です)。

基調講演の後には、原井宏明先生(なごやメンタルクリニック)に、「MI-2からMI-3へ 第3版で何が変わったのか？キー・コンセプトとその日本語化」というテーマで特別講演をしていただきます。現在、動機づけ面接第3版の翻訳作業をなさっている原井宏明先生に、第2版から第3版で何が変わったか、そして訳語の変更点などについてお話しいただく予定です。動機づけ面接第3版の翻訳本の出版は、日本におけるMIのさらなる発展に多大な影響を与えることは間違いないと思われまます。貴重な特別講演をぜひ皆様にお聞き頂きたいと思ひます。

原井先生の特別講演の後、昼食休憩をはさみ、午後からは、原田隆之先生(目白大学人間学部心理カウンセリング学科)による「エビデンスと動機づけ面接」というテーマで教育講演を行います。原田先生は、「心理職のためのエビデンス・ベイスト・プラクティス入門(金剛出版)」などのご著書に代表されるように、心理療法を「エビデンス」という観点から切り込む日本では稀有な先生です。普段のMIの研修会ではあまり聞けないような「エビデンスに基づいた心理療法」、「エビデンスという観点からみたMI」といったお話を聞けることと思ひます。

原田先生の教育講演の後には、加濃正人先生(新中川病院)による「ビデオIPR(Interpersonal Process Recall)で、動機づけ面接を学ぶ」というワークショップを行います。参加者2～3名の方にリアルプレイ(もしくはロールプレイ)で、面接を行っていただき、それをビデオで撮影し、面接終了後、その映像を見ながら面接を振り返るといった形式でMIを学びます。私自身も加濃先生によるビデオIPRの学習会に参加し、とても勉強になりましたので、本ワークショップをご依頼いたしました。通常より限られた時間での研修とはなりますが、皆様のMIのトレーニングのヒントになる研修になることと思ひます。

このほか、例年、行っている一般演題の発表も行う予定です。JAMI事務局より案内がありますので、ぜひご応募ください。1演題10分前後の発表とはなりますが、日頃の皆様のMIの実践、研究の成果をお聞かせいただけますと幸いです。また、年次大会終了後の3月18日夜には、MITI 4のワークショップとは別に、昨年も好評でした瀬在泉先生(防衛医科大学校)による看護師向けMIワークショップも行う予定です。

ざっと、第5回年次大会のご紹介をさせていただきましたが、皆様、如何でしたか？きっと、ご興味を引かれたことと存じます。3月18日の年次大会は例年より開催時間が早く、当日午前10時30分から開催する予定です。前日(17日)のMITIワークショップや19日～20日のMIワークショップとセットで、ぜひご参加ください。皆様にお会いできることを今から楽しみにしております。

日本動機づけ面接協会 第5回 年次大会 演題募集のお知らせ

会員の方へ動機づけ面接に関する口頭発表を募集します。400文字の抄録をつけてお申込みください。

演題募集: 受付期間 > 10月20日～12月19日まで 申込先 > infos@motivationalinterview.jp

大会長: 北里大学医学部精神科学 澤山 透先生
日 程: 平成29年3月18日 10時30分～16時30分
場 所: 東京都内

※年次大会、ワークショップへの参加申込受付等の詳細は、後日協会HPにてご案内いたします。

日常で使える動機づけ面接 No.7

理事 岡嶋美代（千代田心療クリニック）

最近、「いじめられっ子の流儀」（ケイト・コーエン・ポージー著／学苑社）という本が出版されました。いじめっ子からの言葉に上手に対処しようというコミュニケーション・スキルの本です。動機づけ面接の視点から眺めると面白いことに気づきます。

まず、基本の3つの対処法に「侮辱の言葉をほめ言葉に転じる」「質問をする」「相手に賛同する」と書かれてあり、こじつけるなら、是認するポイントを見つけ、上手に質問を繰り返して、共感することに近いものもあります。また、「金塊さがし」と称して、相手の中にあるよいところを見つけて、変化の手がかりにしていくところも、変わりたい動機が必ずあると信じてキラリと光る金塊を探すがごとく信じて聞き返していくことに似ています。他にも、「（いじめっ子が）自分の気持ちを表現できるように助けてあげることが大切」とあります。ますます動機づけ面接の出番だと思いませんか。この本の中では、上手に対応する子をいじめられっ子ではなく、知恵の人と表現されています。

本の中のスクリプトを紹介します。（A:いじめっ子, B:知恵の人）

A:汚いな、あっち行け！

B:あら、照れちゃう。私のこと、そんなに好きなの？

A:お前なんか嫌いだよ。本当に我慢できないくらい。

B:うそでしょ？好きじゃなかったら、こんなに構ってこないはずよ。

いかがですか。この切り返しは日本人のいじめられっ子向きではないかもしれませんので、少し動機づけ面接風に変えてみたいと思います。

A:汚いな、あっち行け！

B:臭かったのかしら……。教えてくれてありがとう。

A:は？頭、おかしいんじゃないの。いじめられてるのがわかんないの？

B:わかるまで、教えてくれようとしていたんだね。無視しないで構ってくれて優しい人だね。

A:気持ち悪いな、もういいよ。

「いじめっ子は、侮辱・自己弁護・お説教・防御・反論・助言・見解・告発に対する反撃を得意としている」のだそうです。いじめっ子はさながら、クライアントの中の維持トークを喋る人のようです。チェンジトークを喋る人の側に登場してもらうためには、12のロードブロックを使わないようにすればよいということも動機づけ面接のワークショップで習ったことを思い出します。いじめられっ子の言動が刺激になって、いじめっ子の暴言をヒートアップする一因になっているとすれば、子どもたちが対人恐怖や不登校になる前にコミュニケーション・スキルの練習ができればどんなにいいことかと思えます。

2017年1月には日本学校教育相談学会第27回中央研修会で動機づけ面接のワークショップが開催されます。学校の教育相談を受けている先生方にも広がっていくことによって、“ストップいじめの動機づけ面接”が流行る日が来るかもしれません。

認定教育団体 ワークショップのご案内

■ **エコロジーヘルスラボ** 1DAY実践ワークショップ

日時: 2016年11月5日(土) 10時30分～17時30分(昼食休憩1時間を含む)

場所: 東京(渋谷) 講師: 原井先生

※詳細は認定教育団体に直接お問い合わせください。

